

通信を
信通

4

北方領土の人々と



北海道知事
高橋 はるみ氏
(たかはし・はるみ)



著作権の関係上、表示できません。

富山生まれの私が札幌生まれの主人と結婚をし、そして北海道の知事をつとめ始めて早や5年がたち。この北海道は全国の22都府県分と同じだけの広さを有しており、その分潜在力と可能性にあふれていると考えているが、他方難題もたくさん抱えている。道内各地には富山県をルーツに持つ道民の方がたくさん住んでいて、いつも私は励まされている。これも「人と人が心を通わす」「通信」ということだと、ありがたく思っている。

さて、北海道の抱える大きな課題の一つとして北方領土問題がある。戦後60年以上を経て日本とロシアの国境が未だ確定していない。これは北海道の問題というより日本国全体の問題である。こうした中、問題解決に向けての環境整備の一環として、私たちは「ビザなし交流」を北方領土の島民の人たちとの間で

続けている。

私自身も一昨年春に、元島民の方などから構成されるメンバーの一人として国後、択捉両島を訪問した。久しぶりに北海道の知事が来るというので、向こうでも話題となつたらし

く、わざわざサハリン州の首都ユジノサハリンスクから領土問題に強硬な議員たちが島を訪れ反対行動を展開するなど、緊迫した雰囲気の中で始まった交流事業であった。しかし私は、基本的スタンスとして、領土問題についての私たちの立場をしっかりと示した上で、現島民の人たちとはできるだけ友好的な雰囲気をつくるよう努めようと決めていた。このため、それぞれの島における住民対話集会においては、島が日本に返還された場合の日本人との共住をどう考えるかなどについて話し合いを行い、私は、「人と人との心からの交流」が友好を基盤とした関係の構築となると、住民に問いかけた。

いろいろな話し合いの後、ある島民が、うちの家内はとてもポルシチをつまく作るので、次の訪問の時はぜひ我が家に来てくれ、と言ってくれた。また次の日の地元新聞も私のこうした意図を評価した報道をしてくれていたのはうれしかった。「人と人の心からの交流」を積み重ねていく努力の中で、一日も早く北方領土問題が解決されるよう、これからも力を尽くしていくつもりである。